

目標：AIの“usability”を高める

—人間中心AIのための開発プロセスと文化的特性—

2023年度の成果

(1) 人間工学的アプローチである従来の人間中心設計プロセスと昨年度までに開発したソフトウェアエンジニアリング的アプローチである利用時品質モデルを融合させ、多様なステークホルダーニーズに基づいたユーザ要求事項を抽出するフレームワークを作成

(2) 前記ユーザ要求事項抽出に向けた事前のユーザ要求を明確化手法を手順化

※成果の書籍化[2]及び、デジタル庁のシステム開発標準ガイドラインへの組み込みを提案中

(3) AIを取り巻く文化的要因の実態と重要性の解明

(4) 成果の社会的発信：新聞などのメディアおよびウェブサイトで一般向けに成果を発信

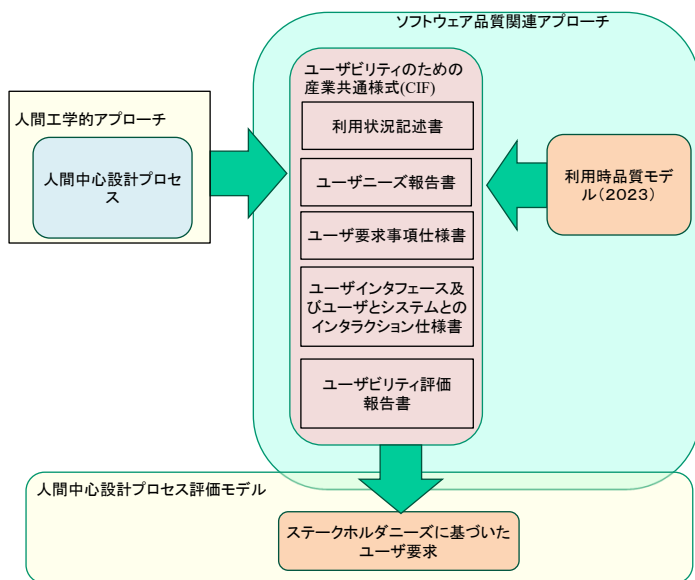


図1 ユーザ要求事項抽出のフレームワーク

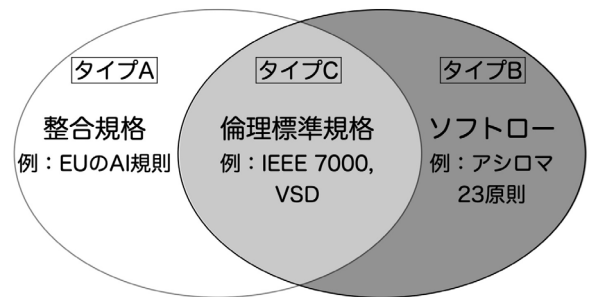


図3 AI規制の3タイプ[7]

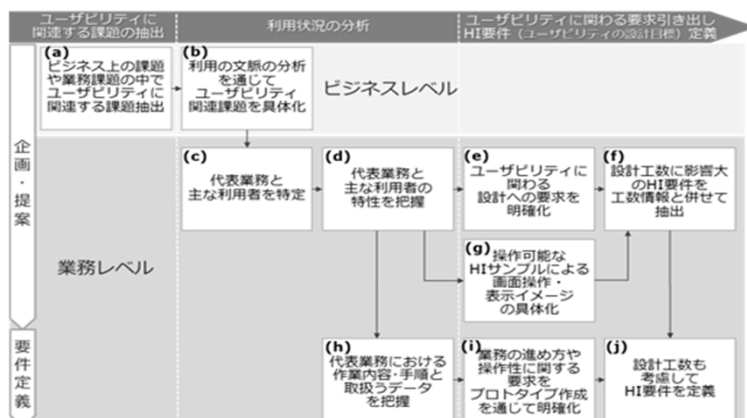


図2 ユーザ要求事項を明確化する手順

発表成果 (一部のみ)

- [1] ISO/IEC 25019 (2023年11月発行)
- [2] 福住・平沢：詳説—ユーザビリティのための産業共通様式(CIF)、近代科学社 Digital、2024年3月
- [3] Fukuzumi S: Validation of items of aspects of interests in quality-in-use: stakeholder needs of each system domain, HCI International 2023
- [4] Ogawa R, Shima S, Takemura T, Fukuzumi S: A Study on trust building in AI systems through user commitment, HCI International 2023.
- [5] 谷川・福住・原田：情報システムの開発を担うソフトウェア技術者がユーザビリティ向上に置く要因：3層モデル図によるシステムの捉え方からの検討、日本認知科学会、2024 (掲載準備中)
- [6] Sakura O: Science communication as cultural communication: bridging two worlds through everyday life, Invited Keynote, 2023 International Forum on Science Communication, Taiwan, Nov. 2023
- [7] 前田・翁・佐倉：人とAIの共生を考えるには「文化」が重要である、科学、94(2)、2024
- [8] 佐倉：AIの姿：人間と共にある存在として、朝日新聞、2023/9/16
- [9] 佐倉ほか：AIの知能と人間の知能、落合陽一氏ホストの NewsPicks WEEKLY OCHIAIに出演、2023/10/4

表彰

- ・福住：情報処理学会情報規格調査会国際規格開発賞 (ISO/IEC 25019: 2023, Systems and software engineering -Systems and software Quality Requirements and Evaluation (SQuARE) - Quality-in-use model.